

自治会自主防災組織活動に関する
アンケート結果（抜粋）

別紙3（自主防災組織運営上の課題及び改善策）

自主防災組織運営上の課題

① 訓練参加者について

- ・会社勤めの若手に防災組織への参加者が少ない。
- ・訓練参加者は自治会及び管理組合関係者が主体でこれに若干の一般住民の参加がある程度である。
- ・訓練参加者がやや少ない。
- ・何かの訓練を計画し盛んに広報しても参加者は少ない。
- ・男性の参加がもう少し多ければと思います。
- ・訓練参加者が少なく、訓練終了後の行事（餅つき大会・鉄火井無料配布等）に集まってくる。
- ・訓練参加者が少なく、決まった人しか集まらない。
- ・訓練参加者が自治会役員や管理組合の役員が参加する他は少ない。
- ・参加者がいつも同じ。
- ・各種行事、訓練参加者が少ないこと。
- ・なるべく多くの方に参加していただきたいが、集まらないのが現状。

② 防災に関するノウハウについて

- ・役員の具体的な活動方針が定まっていない。
- ・毎年同じ内容になってしまう。
- ・防災活動に関しては素人（救難業務等に従事した経験がない者）での活動は2次被災者になってしまうため、かえって危険である。
- ・ノウハウがない（毎年手さぐりで実施）。

③ 防災意識について

- ・関心が薄い。
- ・若い世代の関心が低い。
- ・全般的に防災意識はかなり低い。
- ・自治会役員でも担当者以外は関知しようとしなない。
- ・賃貸住宅のため、自主防災に対する意識が少ない。
- ・刻々と防災の認識が薄れていく。
- ・訓練時の参加者が少ないが、炊き出し時間になると人数が急に増える。防災意識が低い。

④ 役員について

- ・役員、班長から成っている自主防災組織でありますので単年度で交代するために、機動力が損なわれるので継続的な組織を考える必要があり、検討中である。
- ・自治会役員（1年交替）が自主防災組織役員を兼ねているため、一貫性にかけるし、役割分担が曖昧になる。
- ・役員が毎年かわってしまう。そのために立ち上がりの4月～7月は引継ぎ他で実効性のある活動にあまりできない。
- ・輪番体制の班長でくじ引きにより役員を決めており、1年交替のため、知識・経験の蓄積ができない。
- ・役員任期が1年のため、組織運営及び施策の継続性・ノウハウの蓄積等を担保する仕組みが必要であること。
- ・自治会役員が防災組織役員を兼ねるが毎年半数が入れ替わり継続的な運営が難しい。
- ・役員については輪番制の為、引き受け手が無いという事にはならないが、一年ごとに入れ替わる為、専門的知識・経験の蓄積が行われない。
- ・自治会役員は抽選で1年なので慣れたころには終わってしまう。
- ・役員を引き受けてくれる人が少ない。
- ・人手不足。
- ・退職者ではなく、勤務されている方を次の組織の担い手として勧誘したいが、なかなか難しい。
- ・自主防災組織役員を引き受けてくれる方が少ない。
- ・自主防災組織役員を引き受けてくれる人が無い。
- ・役員を引き受けてくれる人がいない（少ない）。アイデアがない（いつも同じメニュー）。

⑤ 高齢化について

- ・自主防災組織員の高齢化。
- ・自主防災組織を作っているが、年々自治会員が高齢化してきているので、機動力の点で問題が生じてくる可能性が大である。
- ・高齢者の会員が多く、訓練参加者が少ない。
- ・自主防災組織に若い人の参加が少なく、毎年高齢化が進んでいる。
- ・住民の防災意識はかなり高いが、老人も多くなっているため毎年減少傾向にはある。
- ・高齢化の為、会員の数が減っている。
- ・組織役員の確保が難しい（班長に割り当てしているが、自覚・実際の協力が無い）。

⑥ その他について

- ・自治会員でない世帯へも今後、訓練への参加を呼びかけたい。
- ・貸与備品の定期的な点検・管理をしていく。
- ・自主防災組織を作る事（現状は無いに等しい）。
- ・現在は夏祭り等で炊き出し訓練を兼ねたカレー、焼きそばの実演等を実施している。
- ・住民への啓発用広報担当者が不足。
- ・組織役員のインセンティブのための資金不足。
- ・防災訓練には370名が参加してくれており、各世帯の防災意識は高いと思っており、見る・知るの参加でなく実際に訓練活動に加わるものにしていきたい。
- ・非常時にどのくらい安否確認等に協力が得られるか。
- ・自治会館が狭いため器材の管理に不備がでる。
- ・大災害が起きる前に自主防災組織が機能しなくなるのではないかと危惧している。
- ・訓練参加者はかなりの人数となるが、天候による事で参加人数に増減がある。
- ・防災器材も簡単なもので、数も少ない。
- ・まだ組織が確立していない。
- ・3.11の場合でも、富士見は被害がほとんどなかった為に自分の事として余り考えていない。非常用食料や水についても国や市が援助してくれると考えている人が目立ちます。
- ・自治会への入会が少ない。
- ・防災活動を全住民が一体となってそれぞれができる範囲でできることを行うようにする。
- ・防災訓練のみでは参加が集まりにくいいため炊き出しをするが、それでも参加者は80世帯余りなので、できるだけ多くの世帯が参加するようにしたい。
- ・平成12年11月15日北栄三丁目自治会防災規約を制定し、組織をしたが、実質的な活動は具体的に行っておらず、防災規約に基づく組織の具体化と活性化を図る必要がある。
- ・避難場所である小中学校が災害復旧工事をしており、また炊き出し訓練をしていた中央広場も震災で凸凹になっている。また自治会集会所も大規模半壊ですから、一般の使用が制限されている状態です。3月末までは護岸工事、下水道管工事・雨水管工事などの復旧工事が複合的に行われ、道路の通行も制限されている状態です。
- ・災害時の一番のポイントは隣近所とのコミュニケーション。
- ・防災訓練の開催。
- ・担当の半数を1年毎に入れ替え、秋祭りと一緒に実施して2年目（2回目）、申し送りを絶やさないため。
- ・平日の実施、事務室、食堂厨房、清掃スタッフのみとなり、寮生が参加できない。
- ・現役世代が役員だと平日は時間が確保出来ず休日にも優先すべきことがあり自主防災組織業務に時間がさけない。
- ・備蓄食料、飲料などの備蓄場所が地下倉庫であること。水道管破裂などによる漏水や津波が押し寄せた際には備蓄品は全滅する可能性がある。
- ・防災部員がいない平日昼間被災時の対応。

自主防災組織運営上の改善策

① 訓練参加者について

- ・ 回覧だけでなく掲示板等にて自由に参加できるよう PR したい。
- ・ 訓練内容をもっと会員の希望するものにするよう再検討する。
- ・ 訓練場所の選定を検討する。
- ・ 訓練時間の調整。
- ・ 会員以外の人にも募集をかけ参加を呼び掛けると共に、その結果を持って入会を促す様にする。
- ・ 訓練は夏祭りと一緒に消火器操作訓練を行っているが、もっと住民参加の機会を増やす。
- ・ 夏祭りと一緒に実施している。
- ・ 各役員から班長会員に参加するよう声かけを行う。
- ・ 共同清掃などのイベントとセットで実施したい。
- ・ 継承のルールを設定（継続は力なり→若さは力）。
- ・ 活動は極力日曜日、主婦や中学、高校生の参加も検討課題。
- ・ 誰もが参加できるような形、体制を作っていきたい。
- ・ 訓練内容を家庭でも役立つテーマを選択する。
- ・ 共同清掃日の午後に行い、休日を2日潰さないよう心掛ける。
- ・ 自主防災組織が確立されたのを機に次年度は堀江橋自治会や富士見2丁目自治会と合同で訓練が実施できないかと思案している。
- ・ 共同清掃の終了後に実施。
- ・ おやじの会の方々の協力。
- ・ 実施月日の検討も考慮したい。
- ・ 炊き出し訓練における食料品の配布。
- ・ 子供会に呼びかけ、ハシゴ車体験希望の募集（人気があるらしい）。
- ・ 独自の訓練を考える。
- ・ 各班に自主防災リーダーを作っていないと集まらない。
- ・ 目につくポスターと新しい企画の考案。
- ・ 祭りと共催することで参加を促したが、タイムスケジュールが厳しかった。
- ・ 時間がとりやすい世代にもっと積極的に参加してもらおう。
- ・ 毎年炊出し、餅つき大会とセットで実施していますが、なかなか参加者が増えません。今年には防災隊（自主防災組織）に訓練実施後のアンケートをとったので、これを元に改善につなげたいと考えています。
- ・ 自治会の役員会と同日に開催し、自治会役員には積極的な参加を促す。
- ・ なるべく早めにポスターなどを掲示する。
- ・ 子供連れでも参加しやすいようにお菓子セットを配布。
- ・ 訓練のみの場合、参加者が少ないため、餅つきと一緒に実施している。参加賞は必須アイテム。UR の連携を深める。
- ・ 訓練参加者に防災用グッズを配布する事を実施予定。

- ・訓練の時期を従来は10月末から11月初旬に行っていたのを春に変更等をする。
- ・全戸配布・イベントとの共同・訓練自体の工夫。
- ・参加者増、効率的に行うため秋祭りと一緒に実施。自治会、管理組合共催。
- ・自治会役員を一回り経験すれば改善されると考える。
- ・管理組合に依頼し、警報装置からフロア単位で通知している。

② 防災に関するノウハウについて

- ・一区自治会の防災計画に沿った実動計画を定め、これに基づく訓練が必要。
- ・当自治会も東北大震災後防災プロジェクトチーム6名が24年度に立ち上がり、防災マニュアルの整備や防災資材調達に専門知識を活用して奮闘中で今後も期待できる。
- ・自主防災隊を結成、救難業務に従事した住民から徐々に訓練を実施する。
- ・会則の変更を検討中。
- ・H23年度に防災サポーター組織を結成。自主防災の補佐役としてH24年度から本格始動。うまく機能している。
- ・毎年実施している防火訓練に防災関連の訓練を盛り込んでいく方向で検討する。
- ・AEDやマンション内の備品の使用方法、場所を伝えるべく、委員会の回数を増やそうとしている。
- ・現在、防災ワークショップを立ち上げ、改善に取り組んでいます。
- ・今年は緊急医療なども盛り込みたいと思っています。

③ 防災意識について

- ・3.11アンケートで水・食糧品を備蓄していない世帯が約15～20%あることが分かったので、ニュース等で各家庭で3日分程度の備蓄をPRする。
- ・浦安市は1300余名の職員が私たちの生命や財産を守るべく、日夜活躍しておられることを伝えても、あまり本気にしてはくれません。「釜石の奇跡」を話しても、非現実的な現象として捉えている感がします。家族全員の非常食を3日分自分で備蓄している人は少ないと思います。あらゆる機会を通じて、防災用品を見せたり、訓練したり、講話会を聴かせる機会が必要と思います。
- ・今まで防災員会がまとめてきた入船東の被害想定に基づく防災活動の全住民への周知。
- ・全住民による訓練の実施。
- ・常日頃から文書配布で意識を高めるようにしている。
- ・炊出しや、場合によっては粗品をつけたりと人が集まる工夫をしていく。
- ・同じフロアでの助け合い・高層階と低層階の助け合い。高層階は低層階に比べて揺れが大きい。低層階は高層階に比べて津波や洪水のリスクが大きい。このことから両者は助け合う必要が必然的にあると思う。3月号の自治会だよりから今後繰り返し訴えていくつもりです。
- ・平日昼間在宅している年配者や主婦による「防災サポーターを募集」。
- ・住民の親睦を図るため、訓練後に棟別懇親会を開催。

④ 役員について

- ・ 自主防災役員の継続性に配慮して、数年間の任期期間とする必要があると考えている。
- ・ できる限り自主防災組織役員を固定化させるよう努力する。
- ・ 役員（協力員）は任期なし。継続を検討している。（1・2年に1度はある雪かき協力など、実際の役割を検討したい）
- ・ 毎年の自治会役員経験者に防災組織の役員をしていただくよう検討している。
- ・ 管理組合（1年で交代）との共催とすることで、メンバーが交代する。
- ・ 1年交替でない防災リーダー、防災サポーターを募集したいと模索している。
- ・ 毎年交換しない複数年継続する体制が望ましい。
- ・ 各階担当グループ長制の実施が効果的だと思われる。

⑤ 高齢化について

- ・ 自治会などで見込みがありそうな若手を勧誘している。
- ・ 子供会と若いお父さん、お母さんに期待している。

⑥ その他について

- ・ 備品管理担当者を決め、点検報告を義務付ける。
- ・ 地区内で住んでいる市役所職員等も参加するよう声かけてもらいたい。
- ・ 【啓発活動について】 広報用経費（ホームページ作成費用、パソコン関係経費）の確保。
- ・ 【役員のインセンティブ】 通信費、出勤費などの手当で、自己啓発支援などを検討。
- ・ 市に対し会館の改築等を要請する。
- ・ 今は復旧工事の完了を急ぐことを優先している。
- ・ 防災マニュアル作成中・高洲地区（高洲小避難所運営マニュアル）との連携により合同の避難訓練も検討協議。

別紙4（連絡協議会の運営などの意見、提案）

6. その他、連絡協議会の運営などについてのご意見、ご提案

	ご意見、ご提案
1	消防団に準ずるような組織づくりと、消防機器の整備が必要と考えます。直下型地震が近接して現在急務であると考えます。簡易ポンプ1台では、直下型地震には対応出来ないのではないかと考えています。
2	安否確認方法を全体で統一したらどうか。
3	協議会の単位を10自治会程度にして、連携・協議を充実化。
4	他市や他都県の防災団体との意見交換会による意識高揚。
5	特定の課題で審議・意見交換するだけでなく、個別の自主防災組織が自身の組織・規約活動内容、備品を自己紹介し、意見交換してはどうでしょうか？
6	協力体制の構築。
7	メーリングリストで情報共有を図ったらどうでしょうか。
8	地域として防災組織は協力すべきであって、個々の事情を超えて大きな目的へ向かって整備する必要がある。
9	連絡協議会も自治会活動の一環でなく、独立した組織にしたらいかがと思う。
10	地区別の交流も必要であるが、もう少し小さいブロックでの（例えば中学校地区・小学校地区）近隣の防災組織間の交流を深めていくことが大事ではないだろうか。
11	単なる上意下達機関でなく、各地区毎の課題を共有でき、お互いの顔が見える横の繋がりのある組織にして頂きたい。
12	現在は各自治体が単体で実施しているが、各地区をブロック分けし、エリア単位で合同実施できたら良いと思います。 （一例）日の出おひさま公園に集合し近隣自治会合同でイベントを実施。その際に各自治会の取り組みを披露しあい、防災意識の啓蒙と相互の情報交換を行うなど。
13	24年度より、地域ネットワーク課が主体となり近隣自治体（URの団地）とURの連絡協議会？が始まりました。防災課も是非参加をお願いします。
14	連絡協議会ですが、全体会議ももちろん必要ですが、地区毎、戸建、集合住宅、分譲、賃貸等それぞれに分かれて行う事も必要不可欠だと思います。
15	防災倉庫の棚の固定工事をしたところですが、他の自治会、市の防災倉庫の見学などできればと思います。
16	ほかのマンションの事例をもっと聞いて、取り入れていきたい。
17	また、消防署の訓練メニューがパターン化しており、なかなか新しい取り組みができない。ワンパターンだとなかなか人が集まらない。
18	各自治会の負担に最大限配慮してほしい。 各種会合は最小限にとどめ、開催案内は遅くとも1か月半前には通知してほしい。

	い。
--	----

ご意見、ご提案	
19	他の自治会やグループでよいアイデアやノウハウがありましたらご紹介ください。
20	協議会を近くで開催してほしい。
21	新町部会の会場は新浦安駅前施設とか公民館とかにして欲しい、集合事務所は遠くて不便。
22	事前に会議スケジュールなどは分かるようにして頂きたい。
23	連絡協議会事務局からの発信文章は、各自治会の会長及び防災担当者の両者に必ず発送することになっていた筈。今回のアンケートについては、会長宛てに発送していないように思える。各会長にも必ず送るのか一貫性をもってやってほしい。
24	堀江一丁目町内の危険な場所の点検をしてほしい。 (公園・住宅・道路・川沿い・橋等)
25	いくつかの自治体が合同で実施している訓練の事例及びその内容を提示してほしい。(訓練項目、場所等) 合同でやる場合の届出方法及び市の補助金申請についての事例を提示してほしい。
26	協議会で提案した「津波、高潮対策(見明川)の堤防の嵩上げ」の要請を市から県に対し行っていただいたのか。回答願います。
27	水難・救助用ボート購入を検討している。(浦安市・補助金利用)
28	自治会は人数も少なく高齢化も進んでいるので、夏祭りに合わせた炊き出し訓練くらいしかできないが、夏祭り会場はいまだ修復できず、災害の復旧を巡って意見が分かれ、一部会員の脱会もあり、今は壊れたコミュニティを修復しなければなりません。
29	連絡協議会と自治会との関係が判っていない。
30	マンションによっては、管理組合が強い。
31	社宅であるため、毎年住人が変わる。このため自治会として自主的に組織を形成し、防災活動に取り組むこと難しい。但し自治会などで集会があれば、防災に関することを話し合い、防災意識を高めるといった活動はしたいと思っている。
32	防災講話を今後もお願いしたい。